

物性グループ事務局報

2012 (H24) . 3. 25

目次

| | |
|---|----|
| 巻頭言 (物性事務局 委員長) | 2 |
| 東日本大震災に対する物性グループ事務局の対応について | 4 |
| 共同利用研究所委員推薦選挙結果 | 5 |
| 拡大物性委員会 (2011. 6. 4) 報告 | 8 |
| 物性幹事会 (2011. 8. 27) 報告 | 11 |
| 拡大物性委員会 (2011. 9. 21) 報告 | 13 |
| 物性委員会規約 (2007. 9. 22 改正) | 16 |
| 共同利用委員推薦に関する申し合わせ事項 (2007. 9. 22 承認) | 19 |
| 新会員 (2009 年 10 月以降登録) | 20 |
| 物性委員名簿 (2012 年 2 月現在) | 22 |
| グループへの新規加入・更新について | 23 |
| 名簿情報新規登録・更新方法 | 23 |

西田信彦(物性委員長)

昨年、東日本大震災と津波そして福島原子力発電所事故は未曾有の被害をもたらした。我々の組織や技術体系がいかに脆いものであったかを思い知らされることになった。世は変革期で、科学研究のありかたを問い直す作業が各方面で行われていたが、原点にもどりさらに厳しく考えなおすことが要求されている。物性グループ事務局が行った震災対応について述べる。

物性グループ事務局は、3月11日の震災・津波の後ただちに何を行いうるかを検討し、3月13日に「震災被災地の研究者、日本に来訪の海外研究者の安否および大学・研究所の被害状況」を把握する活動を開始し、これら情報を物性研究者で共有するために専用ホームページを立ち上げた。大学、研究所に情報提供を送っていただくように依頼、14日には被災地の多くの大学、研究所の安否情報、被害状況が連絡されてきた。10日間に送られてきた安否・被害の情報は今読みかえしてみると当時の緊迫した状況がよくわかる。物性グループ事務局のホームページで今も見るできるので閲覧をお勧めしたい。J-PARC、PF の大型施設の復旧過程もよくわかる。これらは震災を伝える貴重な記録である。被災地の研究者の安否、特に、海外から日本の大学研究所にこられているかたの安否を家族友人が海外から知ろうとしても、所属の大学・研究所の通信が途絶えてしまうと連絡を取る術はないということがはっきりわかった。技術的な問題の検討が必要であろうが、安否登録情報サイトなるものがなんらの形で必要である。

6月4日、震災対策のための幹事会を開催した。物理的被害については被害大型施設と大学個々の被害研究室とのバランスのとれた復旧が必要、さらに、学生、博士研究員等の心理的な面における配慮の必要性が指摘された。東北大の方々は自主復旧の重要を強調された。大学の被災研究室支援のやり方について意見交換を行い、個々の研究室支援策として「震災対策 復興支援情報」サイトを開いた。被災研究室が必要とする支援の内容、支援する研究室が支援できる申し出を互いに書き込むサイトである。研究室間の直接のやり取りで復旧の協力をするというものである。研究活動が停止せざるを得なくなった研究グループ、ボランティア研究室の支援情報が流された。

J-PARC、PF 等の大型施設に対しては国からの支援があり、研究所のスタッフの懸命な努力により1年経過した現在、壊された装置は回復し、共同利用が再開されるころまで来ている。この復旧は驚異的な速さでなされ、実際、KEK の PF は大規模な破損にもかかわらず昨年5月にはビームを出しており、大被害を受けた J-PARC も昨年12月には陽子ビームが加速され、今年になって共同利用が始まりつつある。大型施設の研究者の献身的な努力に感謝したいと思います。大学へも復旧の支援もある程度なされた。現在のいろいろな場所での震災復旧状況を考えると、科学研究に対する手厚い復旧支援は我々の研究活動に対する責任を以前にまして感ずべきであり、物性研究のこれからのあり方を議論するとき以前にまして真剣さが必要である。

もう一つ物性委員会が重点的に取り組む課題としたのは、JPSJ の海外販売についての問題である。学術団体である日本物理学会にとってその学術の成果発表は最も重要で

あり、また、JPSJは特に物性物理研究者にとって65年の長い歴史を持ち多大の努力で現在の地位を勝ち得た雑誌である。それゆえ、JPSJのあり方は、日本の物性研究のこれからのありかたに密接に関係し、物性委員会にとっては最重要問題である。応用研究から基礎科学研究までいろいろな物性研究分野を横断する研究者が集まっているのが物性委員会であり、JPSJ問題を広く議論するのは、物性委員会が最もふさわしい場所となる。昨年春の刊行会からの提案は物理学会員にとって唐突な感じがあったので、昨年9月の富山大学の拡大物性委員会でJPSJの問題をとりあげた。時間が不足し十分な意見交換を行うことが出来なかったため、今年の3月の関西学院大学の年会では十分な時間をとり原点にもどって意見交換を行うことを計画している。

東日本大震災に対する物性グループ事務局の対応について

東北地方太平洋沖地震(2011/3/11)により被災された研究者の安否、ならびに研究所の被災状況などの情報交流のため、物性グループ事務局は物性委員会規約第四条に則り、以下の対応をとりました。

- (1) 全国の物性研究者間の連絡・意見交換の場として、ブログ開設 (2011/3/15)
物性グループ委員に研究者の安否情報、ならびに施設の被害情報の呼びかけ
物性グループ事務局に寄せられたメール、電話による情報をブログ上で公開

現在、物性グループのホームページにて公開中(2011/3/25-)

<http://www.bussei.phys.titech.ac.jp/>

- (2) 拡大物性幹事会を開催(2011/6/4)
物性グループとしての震災対応について議論
物性グループのホームページにおいて「震災対策 復興支援情報」のページを追加
大学・研究所から被災研究者受け入れ情報等を掲載

以上

共同利用研究所委員推薦選挙結果

(1) 東京大学物性研究所人事選考協議会委員(任期：H23. 4. 1-H25. 3. 31)

日時：2010. 8. 21

場所：東工大 田町キャンパス内キャンパス・イノベーションセンター 多目的室 1

幹事会にて、幹事 12 名および委員長と事務局長を加えた計 14 名により、物性物理分野 2 名、物理化学分野 0 名の推薦者選出投票を行った。以下、最終投票結果である。

- ・ 物性物理分野（当選）

| | |
|------------|--------------------|
| 齋藤 晋（東工大理） | 7 票（理論分野の同点者として抽選） |
| 村上 洋一（KEK） | 6 票（実験分野第 1 位） |

(2) 東京大学物性研究所 共同利用施設専門委員会委員(任期：H24. 4. 1-H26. 3. 31)

ノミネーション期間 2011. 7. 5-7. 22

投票期間 2011. 8. 4-8. 31

有権者 203、投票総数 116(投票率 57%)

物性物理分野 7 名+物性化学分野 2 名以内で投票(郵送)

開票 2011. 9. 13 (9 月 12 日までに到着分)

【物性物理分野】

物性グループより推薦

| | |
|--------------------|---------|
| 石田 憲二（京大理） | 39 票 |
| 加賀山朋子（阪大極限） | 37 票 |
| 網塚 浩（北大理） | 35 票 |
| 佐藤 憲昭（名大理） | 34 票 |
| 黒木 和彦（電通大） | 31 票 |
| 石川 修六（大阪市大） | 28 票(*) |
| 森 茂生（大阪府大工） | 28 票(*) |
| 新井 正敏（JAEA・J-PARC） | 28 票(*) |

* 同点者があったため、分野バランス等を考慮して選んだ。

(次点)

| | |
|----------------|-----------|
| 寺崎 一郎（名大理） | 32 票 (**) |
| 世良 正文（広島大先端物質） | 28 票 |
| 楠瀬 博明（愛媛大理） | 28 票 |
| 高木 英典（東大新領域） | 28 票 |

** 同一部局から複数の選出を避けた。

【物理化学分野】

物性グループより推薦

| | |
|--------------|------|
| 細越 裕子（大阪府大理） | 20 票 |
|--------------|------|

(次点)

| | |
|------------|------|
| 吉村 一良（京大理） | 16 票 |
|------------|------|

各種推薦委員選挙結果履歴(敬称略)

1. 物性委員会幹事(任期3年, 物性委員会交代年の8月に選挙)

H21. 10-24. 9 安藤、家、岩佐、上田(和)、大貫、小形、奥田、川上、倉本、佐宗、佐藤(英)、高
島、田島、西田、西森、早川、播磨、藤森、松田、三宅、村上、村田

H18. 10-21. 9 佐藤(正)、高島、後藤、北岡、大貫、巨海、三宅、秋光、前川、上田(和)、福山、
前野、矢ヶ崎、坪田、鈴木、宮下、小田垣、高橋(隆)、押山、川上

2. 物性研人事選考協議会委員(任期2年, 1年ごとに3名と2名が交代, 委員推薦時期8月中旬)

H24. 4-26. 3 播磨、松田、陰山

H23. 4-25. 3 斎藤、村上

H22. 4-24. 3 倉本、山田(和)、吉村

H21. 4-23. 3 佐藤(英)、川村

H20. 4-22. 3 川上、高木、加藤

H19. 4-21. 3 三宅、高島

H18. 4-20. 3 後藤、村上、西森

H17. 4-19. 3 永長、北岡

H16. 4-18. 3 鹿児島、川上、中村

H15. 4-17. 3 佐藤(正)、安藤

H14. 4-16. 3 大貫、倉本、水崎

H13. 4-15. 3 前川、十倉

H12. 4-14. 3 菅、三宅、西田

H11. 4-13. 3 山田(耕)、遠藤

H11. 4-12. 3 前川

H10. 4-12. 3 張、本河、福山

H9. 4-11. 3 斯波、小林

H8. 4-10. 3 川村、石黒、藤田

3. 物性研協議会委員(* H20以降 日本学術会議が推薦)

(* H22. 9-24. 8 野尻、腰原、太田、野上、曾根、尾嶋)

(* H20. 9-22. 8 福山(寛)、野村、岩佐、岡部、中嶋)

H18. 9-20. 8 熊谷、宮島、宮下、中村、前野、金子

H16. 9-18. 8 倉本、北岡、青木、鈴木、佐藤(英)

H14. 9-16. 8 前川、佐藤(正)、西田、大貫、高島

H12. 9-14. 8 巨海、佐藤(正)、西田、三宅、山田(耕)

H11. 3-12. 8 鈴木(治)

H11. 1-12. 8 菅

H10. 9-12. 8 遠藤、斯波、張、

H8. 9-10. 8 遠藤、斯波、小林、藤田、秋光

4. 物性研共同利用施設専門委員会

(任期2年, 1年ごとに8名と7名が交代, 委員推薦時期8月中旬)

- H24. 4-26. 3 石田、加賀山、網塚、佐藤(憲)、黒木、石川、森、新井、細越
- H23. 4-25. 3 高畠、前野、有馬、村田、紺谷、後藤、堀田、加藤、川勝
- H22. 4-24. 3 伊土、関根、佐宗、奥田、石川、松田、小林、鈴木(孝)、細越
- H21. 4-23. 3 田島、村田、繁岡、村上、世良、小口、武田、鹿野田、金谷
- H20. 4-22. 3 網塚、岩佐(義)、田中、野尻、福山、後藤、石田、白濱、吉村
- H19. 4-21. 3 高畠、前野、巨海、和田、鈴木(孝)、野末、天児
- H18. 4-20. 3 繁岡、宇田川、和田、村田、田島、松田、石田、高橋
- H17. 4-19. 3 仲間、高畑、巨海、吉村、山田(和)、前野、熊谷
- H16. 4-18. 3 高野、後藤、小口、石川、野尻、村田、和田、大貫
- H15. 4-17. 3 野末、北岡、赤井、前野、高橋(隆)、水貝、奥田
- H14. 4-16. 3 高畠、山田(和)、岩佐、太田、巨海、畑、谷口、樽茶
- H13. 4-15. 3 熊谷、佐藤(英)、酒井、後藤、宇田川、矢ヶ崎、高柳
- H12. 4-14. 3 村山、三宅、佐藤(正)、大貫、北岡、鈴木、網代、水崎
- H11. 4-13. 3 太田、前川、巨海、倉本、前野、大門、高畠
- H10. 4-12. 3 高橋(隆)、嶽山、山田(和)、山田(耕)、田中(耕)、城、川上(正)、栗原(進)
- H9. 4-11. 3 栗田、水崎、佐藤(正)、三宅、北岡、伊藤、藤田
- H8. 4-10. 3 遠藤、倉本、斯波、梶田、鈴木、菅、大貫、宮下

5. 京都大学基研運営委員 (任期2年, 4名, 連続3選は禁止)

- 2011. 8-2013. 7 川上、上田(和)、栗原、田崎
- 2009. 8-2011. 7 上田、鈴木、斎藤、坪田
- 2007. 8-2009. 7 倉本、川上、川村、宮下
- 2005. 8-2007. 7 三宅、福山、前川、倉本
- 2003. 8-2005. 7 福山、斯波、三宅、前川
- 2001. 8-2003. 7 山田(耕)、安藤、斯波、倉本
- 1999. 8-2001. 7 山田(耕)、安藤、倉本、張
- 1997. 8-1999. 7 斯波、福山、鈴木(増)、興地
- 1995. 8-1997. 7 斯波、川村、鈴木(増)、興地
- 1993. 8-1995. 7 山田(耕)、安藤、福山、川村

6. 京都大学基研共同利用委員

(任期2年, 4名, 京都大学基礎物理学研究所運営委員に選出された者は除く)

- 2011. 1-2012. 12 紺谷、小口、斎藤(理)、楠瀬
- 2009. 1-2010. 12 紺谷、石原(純)、上羽、西森
- 2006. 12-2008. 11 赤井、山下、永長、平島
- 2005. 4-2006. 12 本田、三宅、赤井、川村

拡大物性幹事会

2011年6月4日(土) 13:30 - 16:30

東工大 田町キャンパス内 キャンパス・イノベーションセンター2F 多目的室1

[出席者(敬称略、50音順)]

家(物性研), 岩佐(東大), 上田(物性研), 大貫(阪大), 川上(京大), 倉本(東北大), 佐宗(埼玉大), 高畠(広大), 田島(阪大), 藤森(東大), 村上(高エネ機構), 村田(大阪市大)

オブザーバー 小池(東北大)

事務局 西田(東工大), 西森(東工大), 古賀(東工大), 大熊(東工大)

計 17 名

配布資料

- 1) 物性グループ事務局報(2011年3月31日発行)
- 2) 東日本大震災関連の情報流通サイトウェブページの写し
- 3) 震災対策復興支援情報サイトウェブページの写し(トップページのみ)
- 4) 平成21年度共同利用・共同研究拠点認定一覧

議題

1. 大震災被害に対する物性グループとしての対処
2. 物性コミュニティの物性研究将来像
3. その他

報告

1. 事務局より資料に基づき, 東日本大震災関連の情報流通サイトおよび震災対策復興支援情報サイトの内容の紹介があった。
2. 東北大(工・理), KEK, J-PARC, JRR-3, 原研大洗における震災の被害状況と現状について報告があった。
 - 1) 東北大からの報告
 - ・ 青葉山地区, 応物・電子系建物の上層階の実験室は被害大。9月にプレハブ完成, 2-3年後には建物の改築予定。実験系の学生には実験室立ち上げの経験にもなるが, 最終学年の院生や若手教員にとっては厳しい状況。
 - ・ 今後, 東北大の受験志願者やポスドク応募者の減少がないか心配。
 - ・ 被害を蒙った60万円以上の備品は, 文科省の予算で復活可能。60万円以下の実験機器や消耗品等で, 使わなくなっているものを提供してもらえるとありがたい(以上小池)。
 - ・ 物理学専攻の構成員(教員, ポスドク, 大学院生)に対し, 復興状況に関するアンケート調査を4,5月に実施。その結果をみると, 当初予想より復興のペースは早い。理論グループはほぼ復旧(倉本)。
 - ・ 学生を外に預け, 研究室をばらばらにするのはよくない。自主復興を目指したい。一方, 震災を機に国内外のグループとの交流が活発になることは歓迎(倉本・小池)。
 - 2) KEK, J-PARCからの報告
 - ・ KEK-PFの被害は大きかったが, 現場の職員の尽力により5月連休明けには早くも基幹装置の修理を終え, 現在はビームが復活し光が出ている。まもなく共同利用を再開する予定。

- ・ J-PARC の中性子とミュオン実験施設は、地盤の変形のため復旧にはまだ時間がかかる見込み。12 月中にビームを出すことを目標に復興に取り組んでいる。
- ・ SPring-8 をはじめ、国内外の施設から協力の申し出があった。これを契機に研究交流を深めて行きたい。
- ・ 今後、東電による電力の大幅な使用制限がないかが気になり（以上村上）。

3) JRR 3 号炉, 原研大洗からの報告

- ・ 原子炉本体は外見上損傷なし、詳細な被害状況等は現在調査中。福島原発事故の影響で、原子炉の運転再開の許可が出るかが心配。12 月迄には復旧させる予定（家）。
- ・ 大洗では、概ね装置の 7 割程度は使える状態（大貫）。

議事

1. 物性委員会として、震災復興に向け何ができるかを議論。
 - 1) 物性研究では、研究室規模の物性実験の活動と大型機器を用いる研究施設の活動がともに重要で、バランスのとれた復興が必要。
 - 2) 研究室規模での復興支援としては、東北大から申し出があった「研究室の自主復興」と「国内外の交流強化」を、物性委員会としてサポートしていくことを確認。
- 3) 以上の議論を踏まえ、以下の 2 つを提案：
 - ・ 60 万円以下の実験機器、消耗品等を提供するための掲示板サイトを作り、被災研究室から希望機器を募る（物性委員限定サイトとする）。
 - ・ 被害を受けた研究室から、自主復興していく様子を発信してもらう（こちらは広く外部に公開）。

事務局としてこれらのウェブサイトを準備し、復興支援の 1 つのメッセージとする。

2. 物性コミュニティ・物性研究の将来像について意見交換

- 1) 平成 12 年度に作成された研究拠点整備計画は、地方大学の物性研究の基本的な設備の強化や大学の研究センターの更新等に役立ったと考えられる。
- 2) 平成 22 年度の拠点計画は、平成 21 年から 23 年にかけて、大学や国の研究所が共同研究拠点として名乗りをあげたものである。共同研究の拠点として認められたものもあり、大学内の研究所、研究センターとしてとどまったものもある、この一連の動きで、研究拠点計画は一応の決着がついていると考えられる。
- 3) 平成 12 年度に作成された拠点計画マップは物性委員会ホームページに掲載されたままになっているが、現状に即していないため掲載を止める。それに代わって、拠点として名乗りをあげていた各大学の研究センター等の提案について、その現状を尋ねて、現在の物性研究の状況を把握する資料にする。次回の幹事会で引き続き議題にのせる。
- 4) 平成 12 年度の拠点計画については、名大が事務局のとき(2004-2006 年)、ある程度の総括をした可能性がある。
- 5) 物性委員会としては、箱物だけでなく、研究者の交流といったような新しい価値を見出す方向も目指すべき。
 - 6) 物性研究が今後何をめざすか、国民に対してどう発信していくかは重要な問題。個人の意見に依存する部分が大きく集約は難しい面もある。一方、社会情勢としては、震災を機に研究に対する国民の目が厳しくなる可能性もある。ただし、サイエンスとしての重要性

を軽視させてはいけない。

- 7) 物性委員会は国内の約 200 の研究グループが登録し、1000 人近くの物性研究者の集まりとなっていて、物性コミュニティの中で、各研究分野を横断して物性研究を考え、情報の共有交流をする唯一のグループといえる。
- 8) 学術会議との関係でいうと、学術会議の方から意見を聞くべきグループとして物性委員会を認知することが可能。そのためにも、物性委員会が多くの研究分野をカバーしていることが重要。さらに会員登録を促す必要がある。
- 9) 領域代表を通じて入会の勧誘をしたらどうか。
- 10) 物性委員の全人数だけでも、ウェブページに公開して欲しい。
- 11) 東大物性研・京大基研等の各種委員の選挙権以外に、物性委員会に入会するメリットがあれば教えてほしい。→ 基研の共同利用申請時には、会員であることが必要。物性研でも共同利用の条件にできないか。メリットとは別に、物性コミュニティに入ることに意義を見出して欲しい。

3. その他

- 1) 物性研人事協議会委員選出のための幹事会を 8 月頃開催。
- 2) 共同利用研究所各種委員会委員選出のための選挙を 7 月または 8 月に実施。
- 3) 会費の値下げにより、前事務局から引き継いだ繰越金を会員へ還元しつつある（事務局）。
- 4) 次期事務局を東大・本郷に引き受けてもらうよう事務局から提案。今後検討することになった。

以上

物性委員会幹事会

2011年8月27日(土) 13:30 - 15:30

東工大 田町キャンパス内 キャンパス・イノベーションセンター2F 多目的室1

[出席者(敬称略、50音順)]

岩佐(東大), 上田(物性研), 倉本(東北大), 佐藤(首都大), 高畠(広大), 早川(京大基研),
播磨(神戸大), 藤森(東大), 三宅(阪大), 村上(高エネ研)

事務局 西田(東工大), 西森(東工大), 古賀(東工大), 大熊(東工大)

計14名

配布資料

- 1) 拡大物性幹事会議事録(2011年6月4日開催)
- 2) 東大物性研からの物性研人事選考協議会委員の推薦依頼状および現在の委員リスト
- 3) 各種推薦委員選挙結果履歴(物性委員会幹事, 物性研人事選考協議会委員, 物性研協議会委員, 物性研共同利用施設専門委員会委員, 京大基研運営委員, 京大基研共同利用委員)

議題

1. 「東大物性研人事選考協議会委員」(3名)の推薦のための投票
2. その他

議事

1. 投票に先立ち, 以下の事項を確認

- 1) 倉本義夫, 山田和芳, 吉村一良委員(任期H22.4.1~H24.3.31)の後任委員の選出で, 任期はH24.4.1~H26.3.31である。
- 2) 物性物理学分野から2名, 物理化学分野から1名を推薦する。実験と理論のバランスも配慮する。
- 3) 選出される委員は, 自身の専門分野だけでなく物性全分野にわたる視野を持ち, 年齢は委員の任期中に64歳(東大の定年)を越えないことが望ましい。
- 4) 配布資料のリストに記載の各種委員との重任を避ける。
- 5) 2年を超えて, 引き続き連続して人事選考協議会委員に就任することは避ける。
- 6) 同一大学同一部局に所属する委員が含まれないように選出する。
- 7) 第1回目の投票で得票が1票以下の者は候補者からはずし, 以降の投票を行う。

2. ノミネーションの実施

これまでの選挙に習い, まず候補者のノミネーション(欠席の幹事から寄せられたノミネーションも含む)を行った結果, 25名の名前があがった。このうち前項3)の年齢, 6)の同一所属からの選出制限に抵触する者3名を除き, 22名を第1回投票の候補者とした。

3. 投票の実施

- 1) 物性物理学分野2名, 物理化学分野1名を念頭に, 無記名で3名連記投票を実施(投票者12名)。
- 2) 第1回投票の結果, 2票以上を得票した10名(物性物理学分野6名, 物理化学分野2名, 両

分野にまたがる者 2 名) を候補者として残す。

- 3) 物理化学分野の 1 名を選出するための第 2 回投票を実施。
- 4) 第 2 回投票の結果、北川宏氏(京大理)と陰山洋氏(京大工)が最高得票数 4 票で並ぶ。このため両者に対し第 3 回投票を実施。
- 5) 第 3 回投票の結果、陰山洋氏(京大工)が 7 票 [次点: 北川宏氏(京大理)5 票] を獲得し当選。
- 6) つぎに物性物理学分野の 2 名を選ぶ第 4 回投票を実施 (2 名連記)。
- 7) 第 4 回投票の結果、播磨尚朝氏(神戸大)が 8 票、松田祐司氏(京大理)が 7 票を獲得し当選 [次点: 宮下精二氏(東大) 4 票]。
- 8) 播磨尚朝氏(神戸大)は席上で委員推薦を受諾、陰山洋氏(京大工)と松田祐司氏(京大理)については後日事務局より確認をとる。

4. 震災復興状況についての報告

- 1) 事務局からの報告: 被災研究室に実験機材等を提供するための掲示板サイトの立ち上げを行った。
- 2) 東北大からの報告: 倉本氏から、東北大の震災後の状況について報告があった。
- 3) KEK-PF からの報告: 順調に復興、現時点で 8 割程度。秋のマシントイムの頃には完全復旧の見込み。SPRING-8 からの共同利用受け入れの支援があった他、国内外からの利用者受け入れの協力があり助けになった。
J-PARC からの報告: KEK に比べると復旧が遅れ、テスト運転は 12 月頃から。実験再開は来春頃になる予定(村上氏)。

5. 物性委員登録状況の報告

会員登録の更新作業が終わり、8 月 25 日現在で登録グループ数は 204、メンバー数は 1022 名と、いずれも増加。この数は原子核グループより上回っていると思われる。物性コミュニティの中で分野横断的な議論・情報交流を行える唯一の場として、物性グループの存在は益々重要(事務局)。

6. 次回物理学会(9 月 21 日、富山大)の拡大物性委員会での議題について

- 1) 物性研究の現状と将来について: 新潟大で予定していた議題で、引き続き物性研家氏と新潟大後藤氏に講演をお願いしている。来年春の学会では、京大基研にお話をお願いしたい(事務局)。
- 2) J-PARC 関連: J-PARC と新しくできた CROSS という組織について、関係者から報告したいとの申し出があり、検討することになっている(事務局)。
- 3) JPSJ の現状報告: JPSJ と PTEP の今後の刊行体制について、物性コミュニティに十分な情報が伝わっていない。物理学会のフレンドシップミーティングで詳しい説明がされるだろうが、拡大物性委員会でも簡潔に説明をしていただくことが必要。
→ 事務局より瀧川 JPSJ 刊行委員長に現状報告をお願いする。
- 4) 物理学会の領域制の再検討: 領域制については、領域ナンバーと実際の研究分野の対応がわかりにくい、分野の組み換えがフレキシブルに行えるといった当初の理念が実現しているとは言いがたい、領域 8 のように極端に大きくなった領域が存在する、といった問題があり、見直しが必要な時期にきている。機会をみて拡大物性委員会で取り上げて欲しい(倉本氏)。

以上

拡大物性委員会（物理学会インフォーマルミーティング）

2011年9月21日（水）18:15 - 20:00

日本物理学会秋季大会 富山大学 GA 会場

[出席者（敬称略、50音順）]

安藤（東工大理），家（東大物性研），石川（富山大理），片野（埼玉大理），門野（KEK 物構研），川北（原子力機構），金道（東大物性研），倉本（東北大理），後藤（新潟大自然），河野（理研），榊原（東大物性研），佐藤（首都大理），佐藤（CROSS 東海），斯波，住山（兵庫大理），瀬戸（KEK 物構研），高畠敏郎（広大先端），瀧川仁（東大物性研），武田直也（新潟大工），田島節子（阪大理），遠山貴巳（京大基研），鳥養（山梨大医工），中野（新潟大工），播磨（神戸大理），福山（東京理科大），藤井（CROSS 東海），三宅（阪大基礎工），三宅（KEK 物構研），村上（高エネ機構），山田（東北大），Wilson Agerico Dino（阪大工）

事務局：西田（東工大理），西森（東工大理），古賀（東工大理），大熊（東工大理）

計 35 名

配布資料

- ・ 物性研報告
- ・ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所報告
- ・ J-PARC の現状と新たな動き —震災復旧と登録機関—
- ・ 京大基礎物理学研究所報告

報告

西森事務局長より以下の報告があった。

1. 入退会状況および会計報告

- ・ 2011年9月14現在 グループ数 171 委員数 204名 メンバー数 1022名
- ・ 会費の値下げ（本来の規定の半額）により繰越金の一部を会員に還元した。

2. 東大物性研共同利用施設専門委員会委員選挙開票結果の報告

| | | | | |
|-----------|-------------------------|------|-----|-----------|
| ノミネーション期間 | 2011年7月5日より7月22日まで | | | |
| 投票期間 | 2011年8月4日より8月31日まで | | | |
| 有権者数 | 203 | 投票総数 | 116 | （投票率 57%） |
| 開票 | 2011年9月13日（9月12日までに到着分） | | | |

物性研共同利用施設専門委員会

【物性物理分野】

物性グループより推薦

| | |
|-------------|------|
| 石田 憲二（京大理） | 39 票 |
| 加賀山朋子（阪大極限） | 37 票 |
| 網塚 浩（北大理） | 35 票 |
| 佐藤 憲昭（名大理） | 34 票 |
| 黒木 和彦（電通大） | 31 票 |

| | |
|---------------------|----------|
| 石川 修六 (大阪市大) | 28 票 (*) |
| 森 茂生 (大阪府大工) | 28 票 (*) |
| 新井 正敏 (JAEA・J-PARC) | 28 票 (*) |

* 同点者があったため、分野バランス等を考慮して選んだ。

(次点)

| | |
|-----------------|-----------|
| 寺崎 一郎 (名大理) | 32 票 (**) |
| 世良 正文 (広島大先端物質) | 28 票 |
| 楠瀬 博明 (愛媛大理) | 28 票 |
| 高木 英典 (東大新領域) | 28 票 |

** 同一部局から複数の選出を避けた。

【物理化学分野】

物性グループより推薦

| | |
|---------------|------|
| 細越 裕子 (大阪府大理) | 20 票 |
|---------------|------|

(次点)

| | |
|-------------|------|
| 吉村 一良 (京大理) | 16 票 |
|-------------|------|

議事

1. 会計報告について

- ・報告のとおり承認された。

2. 物性研共同利用施設専門委員会委員の推薦について

- ・報告のとおり承認された。

3. 物性研究の現状と将来について

- ・標記テーマで、東大物性研所長の家泰弘氏と新潟大の後藤輝孝氏に講演をしていただいた。(家氏)

①文科省関係： 科研費の基金化、震災復興財源との関係について、②学術会議関係： 最近の活動報告、「科学・夢ロードマップ」の策定について、③物性研関係： 大型計画、J-PARC (中性子)、次世代強磁場施設、計算物質科学研究センターの概要等について説明された。

(後藤氏)

震災による新潟大での物理学会中止の経緯説明に続き、①平成 12 年度の学術会議報告「物性拠点整備計画」の果たした役割： He 液化装置の更新とその成果、②新潟大における拠点整備の現状： 物質量子科学研究センターの設置、産学連携、地域研究拠点への努力、③地方大学から物性コミュニティに対する希望と将来展望： 博士課程院生への支援、基礎研究(个性的研究)の推進、アジアを中心とする国際交流、大型予算獲得等について説明された。

(自由討論)

- ・全国的にもグローバル COE 終了後の博士課程学生への支援の問題は重要、物性コミュニティとしてもっと声を上げるべきでは。
- ・大型資金獲得ばかりに目を向けると、人材育成でポスドクの問題等、若手にいい影響を与えなくなる面も出てくる。

4. J-PARC の現状と新たな動き

- ・川北至信氏（J-PARC センター）と藤井保彦氏（GROSS 東海）による説明が行われた。

（川北氏）

震災の被害状況と復旧計画，新学術領域「超低速ミュオン顕微鏡」の概要，実験ステーション整備計画等の説明がされた。

（藤井氏）

特定先端大型研究施設の位置づけ，GROSS 東海事業センターの組織，JAEA と GROSS との関係等について説明された。

5. 物理学会の領域制の見直しについて

- ・倉本義夫氏（東大理）より，現行の領域制は見直す時期にきているのではないか，という問題提起があった。領域番号から研究分野が浮かびにくい，領域間の流動性を高めるという当初の目的が実現されているとは言い難い，巨大化した領域が存在する，といった問題点があげられた。

6. JPSJ の出版の海外提携について

- ・物理学会刊行委員長の瀧川仁氏（東大物性研）より，「英国 IOP に JPSJ の海外販売と電子ジャーナルのオンライン掲載を委託する計画」に関する説明があった。読者層の拡大及び安定した財政基盤の下で進んだ技術を取り入れることを目的とするとのこと。これに対し，以下の意見が出された。

（意見）

- ・現体制の問題点，IOP への委託によるメリットは認めるが，デメリットも説明すべきでは？もう少し議論の時間が必要。
- ・会員にもっと情報を公開して欲しい。Web トップページの変更は，大きな心理的影響があるはず。

以上

物性委員会規約

平成18年 3月27日制定

平成19年 9月22日改訂

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会の名称を物性委員会という。これは従来の物性百人委員会を改称したもので、その事務局も任期までその任務を引き続き行う。

(事業所)

第2条 本会の事業所は事務局が所属する機関のある場所に置く。

第2章 目的及び事項

(目 的)

第3条 本会は、物性分野の研究の発展を目指して、その分野における各種の意見調整やそれに基づいた提言、さらには親睦を図ることを目的とする。

(事 項)

第4条 本会は、次の事項を行う。

- 一 全国の物性研究者間の連絡、意見交換の場を作り、必要ならば意見を集約し提言を行う。
- 二 日本学術会議の物性物理学・一般物理学分科会との密接な連絡を図る。
- 三 全国共同利用機関の各種委員の推薦等を、要請に応じて行う。
- 四 その他、物性分野の発展に寄与するための活動を行う。

第3章 会 員

(会員および物性グループ、拡大物性委員会)

第5条 本会の会員は、全国で物性分野の研究・教育に携わる者で構成する各グループの代表者である。本会の会員が属する研究グループ全体をまとめて物性グループと呼ぶ。

- 一 代表者の人数は各グループの構成員として登録した人数に応じて別に定める。
- 二 必要に応じて物性グループ員なら誰でも出席できる会議を設ける。これを拡大物性委員会と呼ぶ。

(会 費)

第6条 各グループはその構成員数に応じて会費を納入しなければならない。会費の納入は、原則として3年一度とし、金額はグループの構成員数に応じて別に定める。

(入会および退会)

第7条 会員として入会しようとするものは、委員長に申し込み、その承認を得なければならな

い。委員長は、会費を滞納した会員、または拡大物性委員会において理由を挙げて本会員として適当でないと決議されたものを退会させることができる。

第4章 役員

(役員構成と事務局)

第8条 本会に、役員として委員長、事務局長、および事務局員若干名を置き、事務局を構成する。事務局は物性委員会と物性グループの活動に必要な事務を行う。

(役員選出と任期)

第9条

- 一 物性委員長と事務局長の候補は幹事会（第16条）が推薦し、拡大物性委員会で決定する。
- 二 事務局員は物性委員長と事務局長が決定する。
- 三 役員任期は、3年とする。

(委員長職務)

第10条 委員長は本会を代表し、事務局構成員と協力して本会の運営を統括する。

(監査人)

第11条 本会に会計を監査する監査人2名を置く。監査人は事務局を構成する機関以外の構成員から選出する。

(監査人任期)

第12条 監査人任期は、3年とする。

(監査人選出)

第13条 監査人の選出は、事務局交替直後の拡大物性委員会で行う。

第5章 幹事

(幹事構成と選出)

第14条 本会に幹事を置く。

- 一 幹事のうち2名は委員長、事務局長とする。
- 二 その他の幹事のうち2名は、前委員長、前事務局長とする。
- 三 上記以外の幹事として、18名を物性委員会の選挙により、会員あるいはそのグループの構成員から選出する。

(幹事任期)

第15条 任期は事務局の任期と同じ3年とする。

(幹事の職務と幹事会)

第16条 幹事は幹事会を構成し、委員長および事務局と協力して本会の運営にあたる幹事会には、必要に応じて日本物理学会領域委員会物性領域代表、日本学術会議の物性関係委員、およびその他の適任者をオブザーバーとして加えることができる。

第6章 経 理

(経 費)

第17条 本会の経費は各グループからの会費によって運営する。

(監査報告)

第18条 監査報告は、原則として事務局交替直後の拡大物性委員会において行う。

附 則

この規約は平成19年9月22日より施行する。

共同利用委員の推薦に関する申し合わせ事項 (2007(H19)年9月22日承認)

1. 東京大学物性研究所の人事選考協議会委員の推薦は、物性委員会幹事の投票によって行う。原則として得票数の多い順に推薦を行うが、物性委員会幹事会を招集して、物性物理分野と物理化学分野、理論と実験のバランスなどを議論したのち最終的な推薦順位を決定する。
2. 京都大学基礎物理学研究所の運営委員については、物性委員全体の投票に基づいて推薦を行う。得票数の順に推薦を行うことを原則とするが、分野のバランスなどを考慮して物性委員会幹事会が議論し、最終的な推薦順位を決定する。
3. 上記1と2以外の共同利用委員の推薦は、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。
4. 上記2と3の投票に際して、物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。リストの候補者数は、各共同利用委員への推薦人数の2倍以上とする（各共同利用委員推薦人数は、東京大学物性研究所共同利用施設専門委員：9名（隔年で、9名中1名あるいは2名を物理化学分野から選出）、京都大学基研運営委員：4名、京都大学基研共同利用委員：4名）。候補者の登録は、物性委員3名以上の賛同をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することとする。また物性委員長は、必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。物性委員は、投票に際して候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。
5. 東京大学物性研究所人事選考協議会委員および京都大学基礎物理学研究所運営委員に推薦されたものは、その他の共同利用委員を辞退することができる。その場合、その他の共同利用委員選挙で次点以降を繰り上げて各共同利用機関に推薦する。

新会員（2009(H21)年10月以降登録）

| 機関名 | 部局名 | グループ名 | 連絡責任者 | 物性委員 | メンバー |
|--------|----------|-------------|-------|--------------|--|
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 西森研究室 | 西森秀稔 | 西森秀稔 | 西森秀稔(統計力学) 高橋和孝(統計力学) 大関真之(統計力学) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 半導体スピントロニクス | 吉野淳二 | 吉野淳二 | 吉野淳二(半導体スピントロニクス) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 物性理論 | 古賀昌久 | 古賀昌久 | 古賀昌久(物性理論) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 物性実験 江間研 | 江間健司 | 江間健司 | 江間健司(ソフトマター) 佐々木裕司(ソフトマター) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 物性理論 | 村上修一 | 村上修一 | 村上修一(物性理論) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 量子電子輸送 | 藤澤利正 | 藤澤利正 | 藤澤利正(半導体物性) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 物性理論 | 安藤恒也 | 安藤恒也 | 安藤恒也(物性理論) |
| 東京工業大学 | 像情報工学研究所 | | 宗片比呂夫 | 宗片比呂夫 | 宗片比呂夫 |
| 東京大学 | 物性研究所 | 物性理論 | 上田和夫 | 上田和夫 高田康民 | 上田和夫(物性理論) 高田康民(物性理論) 押川正毅(物性理論) 常次宏一(物性理論) 甲元真人(物性理論) 杉野 修(物性理論) 加藤岳生(物性理論) 川島直輝(物性理論) 野口博司(ソフトマター) 藤井達也(物性理論) 前橋英明(物性理論) 大久保潤(物性理論) 服部一匡(物性理論) 佐藤昌利(物性理論) 野口良史(物性理論) 内海裕洋(物性理論) 富田裕介(物性理論) 鈴木隆史(物性理論) 芝 隼人(ソフトマター) |
| 東京大学 | 物性研究所 | 高分子物性 | 柴山充弘 | 柴山充弘 | 柴山充弘(高分子物性) |
| 東京工業大学 | 理工学研究科 | 低温物理 | 奥田雄一 | 奥田雄一 | 奥田雄一(低温物理) |
| 兵庫県立大学 | 工学研究科 | 金属物理 | 菅誠一郎 | 菅誠一郎 | 菅誠一郎(物性理論) |

| | | | | | |
|--------|---------|--------|------|------|--|
| 大阪大学 | 理学研究科 | 新奇量子現象 | 田島節子 | 田島節子 | 田島節子(超伝導, 光物性) |
| 大阪大学 | 基礎工学研究科 | 物性理論 | 三宅和正 | 三宅和正 | 三宅和正(物性理論) 河野 浩(物性理論) 渡辺真仁(物性理論) 鶴田篤史(物性理論) 伏屋雄紀(物性理論) 藤本行延(物性理論) |
| 東京大学 | 理学部物理 | 物性理論 | 小形正男 | 小形正男 | 小形正男(物性理論) 松浦弘泰(物性理論) |
| 東京大学 | 理学系研究科 | 光電子分光 | 藤森 淳 | 藤森 淳 | 藤森 淳(光電子分光) |
| 大阪府立大学 | 理学系研究科 | 物性理論 | 田中 智 | 田中 智 | 田中 智(物性理論) |
| 東京大学 | 物性研究所 | 生体膜物性 | 野口博司 | 野口博司 | 野口博司(生体膜物性) 好村滋行(生体膜物性) 芝 隼人(生体膜物性) |

物性委員名簿（2012H24）年2月現在）

| | | | | | | |
|------|-------|-------|-------------|-------------|-------|-------|
| 北 孝文 | 奥田浩司 | 野村一成 | 村山茂幸 | 佐藤和弘 | 佐々木孝彦 | 野尻浩之 |
| 寺内正己 | 落合 明 | 高橋 隆 | 倉本義夫 | 谷垣勝己 | 小池洋二 | 藤原 巧 |
| 伊賀文俊 | 宮崎州正 | 谷口伸彦 | 佐藤正俊 | 鈴木淳市 | 柏谷 聡 | 柳澤 孝 |
| 門野良典 | 瀬戸秀紀 | 村上洋一 | 前川禎通 | 森 道康 | 髭本 亘 | 三宅康博 |
| 河野公俊 | 矢嶋 徹 | 近藤一史 | 佐宗哲郎 | 片野 進 | 加藤徹也 | 小堀 洋 |
| 太田幸則 | 家 泰弘 | 小森文夫 | 末元 徹 | 辛 埴 | 野口健司 | 上田和夫 |
| 高田康民 | 常次宏一 | 嶽山正二郎 | 金道浩一 | 柴山充弘 | 佐藤 卓 | 吉岡大二郎 |
| 小形正男 | 藤森 淳 | 金田保則 | 岩佐義宏 | 安藤恒也 | 江間健司 | 大熊 哲 |
| 奥田雄一 | 古賀昌久 | 斎藤 晋 | 田中秀数 | 西田信彦 | 西森秀稔 | 村上修一 |
| 藤澤利正 | 宗片比呂夫 | 横山 健 | 奥村 剛 | 秋光 純 | 北野晴久 | 高橋利宏 |
| 荒川一郎 | 小田垣孝 | 増淵伸一 | 矢口 宏 | 齊藤敏明 | 西尾 豊 | 河原林透 |
| 鈴木壯吉 | 鹿児島誠一 | 円谷和雄 | 栗原 進 | 勝藤拓郎 | 佐藤英行 | 大野かおる |
| 武田 淳 | 高橋正雄 | 鳥養映子 | 大野義章 | 家富 洋 | 後藤輝孝 | 原田修治 |
| 武田直也 | 志水 久 | 石川義和 | 福原 忠 | 前園 涼 | 水谷五郎 | 岩崎秀夫 |
| 碓 寛 | 海老原孝雄 | 中村敏和 | 和田信雄 | 平島 大 | 上羽牧夫 | 佐藤憲昭 |
| 伊藤正行 | 中村新男 | 田仲由喜夫 | 大成誠一郎 | 佐野和博 | 荒木武昭 | 武末真二 |
| 川上則雄 | 池田隆介 | 松田祐司 | 吉村一良 | 中村裕之 | 前川 覚 | 澤田安樹 |
| 遠山貴巳 | 早川尚男 | 西本明弘 | 畑 徹 | 石川修六 | 鐘本勝一 | 橋本秀樹 |
| 小栗 章 | 坪田 誠 | 村田惠三 | 吉野治一 | 寺井 章 | 中山正昭 | 田島節子 |
| 花咲徳亮 | 大貫惇睦 | 杉山清寛 | 川村 光 | 野末泰夫 | 三宅和正 | 芦田昌明 |
| 北岡良雄 | 笠井秀明 | 中西 寛 | Dino Wilson | Agerico Tan | 森 茂生 | 石田武和 |
| 内藤裕義 | 石原 一 | 秋田成司 | 平井義彦 | 藤村紀文 | 堀中博道 | 田口幸広 |
| 溝口幸司 | 細越裕子 | 梅澤憲司 | 河村裕一 | 吉野太郎 | 藤 秀樹 | 太田 仁 |
| 播磨尚朝 | 菅誠一郎 | 小林寿夫 | 住山昭彦 | 櫻井吉晴 | 平井國友 | 坂井 徹 |
| 稻見俊哉 | 木下豊彦 | 鈴木基寛 | 秋重幸邦 | 竹内 潤 | 田中宏志 | 藤井佳子 |
| 大嶋孝吉 | 岡田耕三 | 乾 雅祝 | 宇田川眞行 | 戸田昭彦 | 浴野稔一 | 東谷誠二 |
| 高畠敏郎 | 鈴木孝至 | 嶋原 浩 | 蔦岡孝則 | 繁岡 透 | 嶋村修二 | 小山晋之 |
| 本田 亮 | 礪田 誠 | 楠瀬博明 | 前原常弘 | 福山隆雄 | 平岡耕一 | 下村 哲 |
| 松村政博 | 宮川賢治 | 小隈龍一郎 | 秋永正広 | 美藤正樹 | 真下 茂 | 赤井一郎 |
| 小山佳一 | 二木治雄 | 稲岡 毅 | | | | |

グループへの新規加入について

登録するグループには、それぞれのグループに属する会員を登録してください。会費は、登録会員数5名まで、年間500円、5名を超えるごとに500円ずつ加算されます。また、物性グループで行う選挙に投票権を持つ物性委員会の委員も下記のように登録会員数10人（端数は切り上げ）につき1人の割合で出させていただきます。

グループの更新は3年に一度行われます。現在は平成23年4月から26年3月までの期間の1年目に当たっています。入会は随時受付ですが、入会時期により会費が異なります。

平成23年4月から平成24年3月までに入会のグループは3年間の会費を納入してください。なお、2010年9月の拡大物性委員会の決定に基づき、今回は本来の額の半額になっています。

| 会員数 | 1年間の会費 | 2年間の会費 | 3年間の会費 | 委員数 |
|--------|--------|--------|--------|-----|
| 1～5人 | 500円 | 1,000円 | 1,500円 | 1名 |
| 6～10人 | 1,000円 | 2,000円 | 3,000円 | 1名 |
| 11～15人 | 1,500円 | 3,000円 | 4,500円 | 2名 |
| 16～20人 | 2,000円 | 4,000円 | 6,000円 | 2名 |
| 21～25人 | 2,500円 | 5,000円 | 7,500円 | 3名 |

各グループは、登録委員の中から1人の世話人を決めてください。世話人は以下の方法で登録してください。

名簿情報新規登録・更新方法

1. 平成23年4月から新規登録となり、平成23年度から3年度分の会費をいただいております。振込手数料を差し引いた金額を下記の口座へ納入してください。

銀行：みずほ銀行

支店：大岡山支店

種類：普通預金

口座名：物性グループ事務局（東京工業大学）

口座番号：2196804

2. 新規登録・更新、共に http://www.bussei.phys.titech.ac.jp/touroku_renew.html の「登録フォーム」から名簿情報を登録してください。

不明な点は下記の連絡先をお願いいたします。

連絡先：〒152-8551

東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻 西森研究室

email: bussei-jim@phys.titech.ac.jp

手続きは、名簿の登録と会費の納入が事務局で受理されて完了します。

納入の確認が取れ次第、事務局から確認のメールを差し上げます。

物性グループ事務局

委員長 西田信彦（東工大 理）

事務局長 西森秀稔（東工大 理）

事務局員 大熊 哲（東工大 理）

古賀昌久（東工大 理）

連絡先

〒152-8551

東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻 西森研究室

email: bussei-jim@phys.titech.ac.jp